



行政書士 MAP

第7回：「人をつないで」半世紀
夫婦二人三脚の満55年行政書士

福岡県行政書士会

広報部発行

行政書士は扱う業務が幅広い仕事。そのため一人ひとりの得意分野や仕事の流儀、人生の背景も実に多様です。この「行政書士 MAP」では、福岡県行政書士会の会員の中から、話題の行政書士やさまざまな活動を行う行政書士をご紹介します。

第7回は、55年の長きに亘って活動し、永年会員としても表彰された『杉野測量登記事務所 杉野琢美会員』を訪ねました。

広報部(以下「広」)：杉野会員、本日はお時間をいただきありがとうございます。実に半世紀以上というキャリアは、書士会でも最長クラスですが、まず、行政書士を志したきっかけを教えてくださいませんか？

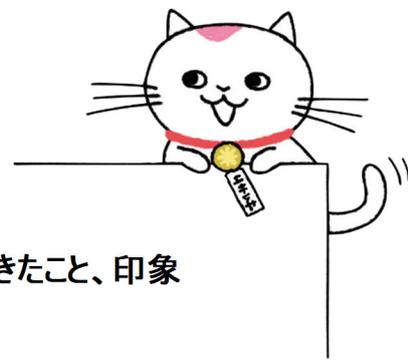
杉野会員(以下、「杉」)：社会人として最初に勤めた職場が、司法書士事務所に勤めている親戚から紹介された行政書士兼土地家屋調査士の事務所でした。そこで働く中で農地転用や土地の測量の業務に携わる機会が多く、当時の上司の勧めもあって、自然と行政書士、そして土地家屋調査士の資格を取りたいと思うようになりました。

私が行政書士になって間もない頃(昭和40年代後半)は、田中角栄の『日本列島改造論』により、日本中が活気に満ちた好景気の時代でした。夏場は日が長いので早朝から夕方まで一日中測量の現場に出て、夜になって初めて書類の作成に取り掛かるという日も多かったですよ。

大学時代に病気をした経験から、ずっと机に向かっている仕事よりは適度に体を動かす仕事の方がいいと思っていました。だから、この仕事は性に合っていたと思います。給料は決して高くはありませんでしたが、お金をもらって勉強していると思えば忙しさも苦になりませんでした。

広：日本中で開発が進む中、田畑を売買したい、農地転用の許可を取りたいという方もとても多かったですよね。





その後、独立されたとのことですが、これまでの経験の中で大切にしてきたこと、印象に残ったことを教えてください。

杉: 行政書士としてここまで仕事をする中で、不可欠だったのは仲間の存在だったと思います。

私は病気をしたことで、社会人のスタートが周りの行政書士より遅れました。ただその反面、仕事仲間としては一回り下の年齢の人に囲まれることになりました。

建築士や建設業の従業員など、たくさんの若者と仲間となり、試験勉強を一緒にしたり、業務についての勉強会を開くなどして共に学びました。若い頃に切磋琢磨した仲間とは仕事上でも協力し合うことが多かったのですが、自分が年を取ってもその関係が続いています。

仲間が年上だったらみんな現役を引退してしまって、協力してくれる人もいなくなってしまったと思います。病気をしたおかげ、と言っておおげさですが、いま私が 80 代になっても、仲間はまだ 70 代なので、一緒に仕事ができている大変助かっています。

振り返ってみると、病気をしたことがかえてプラスになったりと、「人生万事塞翁が馬」のキャリアだったと実感します。

広: 若い頃から築かれた関係が、今の仕事にも生きているんですね。

杉: そうですね。特に行政書士は業務の幅が広いので、お客様から相談を受けた時にその業務を専門にしている行政書士を紹介することも多いですね。もちろんその逆で、私が紹介してもらったこともありました。

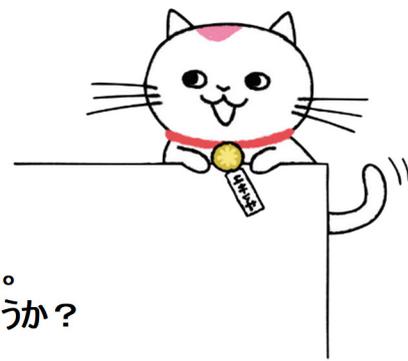
そういえば、妻との出会いも、仲間からの紹介だったんですよ。

広: 奥様とのご縁も、そんなつながりからだったんですね。奥様も 24 年間行政書士として活躍されていますね。

杉: 妻は結婚してから行政書士の資格を取ったのですが、尋常ではない努力でした。そろばんも簿記もできて、タイプもすごい腕前です。結婚後は子どもを育てながら測量の専門学校へ通い、測量士や土地家屋調査士の資格も取りました。

妻の力無しでは今のように続けてはこれなかったでしょうね。よくぞ私のところへ来てくれたと思います。ご縁に恵まれました。





広:ご夫婦で協力されたことも、長く活躍される原動力だったんですね。
最後に、杉野会員の考える行政書士の役割とはどのようなものでしょうか？

杉:行政書士として、頼まれたことを的確に素早く実行し、お客様の役に立つことだと思います。そして、地域の方のご相談に応じることも大切な役割です。暮らしの中で困ったことがあった時に、そもそも、どこに相談していいかを迷うこともありますね。そんな時も行政書士に相談することで解決の糸口になることがあるはずです。市役所をはじめ、地域で行政書士による無料法律相談会もたくさん行っていますので、ぜひ、足を運んでみてください。

私自身も相談を受けて、しかるべき機関へ話をつなぎ、解決の道筋を探した経験がたくさんあります。

以前久留米の公証役場は2階にあり、高齢の方が急な階段を登らないといけない状況でした。仲間とも連携し、総務省へ働きかけることで1階への移転、バリアフリー化の実現につなげることができました。

バブル崩壊後に行政改革を進める声が高まった際には、私たちの支部でもフォーラムを開催したり、行政に働きかけることで、「市民の使いやすい窓口業務」への改善を目指した活動もしました。支部長となり行政書士の研修会を運営した時には、行政の担当者との意見交換を活発に行い、講師となってもらうこともたくさんありました。ここにも、若い頃から行政の担当者と関係を作ってきたことが活きたと思っています。

行政書士業務とは離れますが、地域の花を増やす活動、桜を守る活動などのご相談を受ける中で、その桜が「浅井の一本桜」と名所になりました。湖面に映る逆さ桜として有名になったのですが、私が一役買ったのだと思うと嬉しかったですね。

人と人をつなぐ、こういったことも、地域に根差した行政書士の役割ではないかと思っています。

広:正に、「頼れる町の法律家」ですね。
最後に、杉野会員が仕事のときに大切にしていることを教えてください。

杉:「あと一手間」をおしまないことです。そのことがお客様の満足につながり、再度のご依頼や、他のお客様をご紹介いただくことにもつながっています。

広:お忙しい中、ありがとうございました。

～行政書士プロフィール～



杉野 琢美(すぎの たくみ)

登録年月日:昭和44年3月10日

杉野 登實子(すぎの とみこ)

登録年月日:平成12年12月8日

事務所所在地:福岡県久留米市日ノ出町65番地